

# 旧熊谷陸軍飛行学校桶川分教場整備事業

—No.27 桶川市—

## 【事業の目的】

市指定有形文化財「旧熊谷陸軍飛行学校桶川分教場建物」を復原整備し、平和意識の啓発、文化財の保存と継承に資することを目的としています。

## 【事業の内容】

昭和12年に設置された「旧熊谷陸軍飛行学校桶川分教場」は、当時の建造物（守衛棟、車庫棟、兵舎棟、便所棟、弾薬庫）が一群となって現存する全国的にも希少性の高い遺構であり、平成28年2月には市の有形文化財に指定しました。本市では、この貴重な遺構を保存・活用するための整備事業を推進しています。

## 【事業年度】

平成24年度～平成32年度（9か年）

## 【予算額(千円)】

518,198千円（平成30年度～平成31年度）

## 【財源】

地方債（地域活性化事業）、一般財源（市）、  
繰入金（旧熊谷陸軍飛行学校桶川分教場跡地整備管理基金）

## 【事業実施に至った背景・経緯】

本市では、平成21年に、NPO法人旧陸軍桶川飛行学校を語り継ぐ会より、旧陸軍桶川飛行学校の遺構保存についての要望書を受領したことを契機とし、同遺構の保存と活用に向けた検討を開始いたしました。

その後、学識経験者を含めた委員会や庁内での検討、各種調査研究等を重ね、同遺構の整備や活用の方針を定め、平成30年度、平成31年度の2か年で、市の有形文化財に指定された建造物5棟の復原整備工事を実施します。

## 【事業のPRポイント】

- 市の有形文化財に指定し建築物5棟を復原するだけでなく、復原後は文化財建築物としての価値を伝えると同時に「平和を発信する場」として平和に関する展示等を行い、活用を図ります。
- 文化財建築物の修復については、高い専門性が求められるため、県内の大学で唯一、文化財建築物修理技術者の実務家教員の研究室がある、学校法人ものづくり大学と官学連携協定を締結し、事業を進めています。
- 復原整備事業の財源に充当するための基金を創設し、ふるさと納税制度を活用して、当該事業に対する寄附金を募集しています。

この取組みにより、これまで桶川市や旧熊谷陸軍飛行学校桶川分教場について知らなかった方にも興味を持ってもらうことができます。

- 施設を開館する予定の平成32年度は、戦後75周年の年にあたります。戦後70年以上が経過している現在、全国の戦争遺構は都市開発や風化により失われている傾向にあります。全国的にも希少性の高いこの遺構を有形文化財に指定し、次世代、次々世代へと保存継承し、平和を発信することは非常に重要なことと考えています。

また、国においては、昨年度「文化経済戦略」を策定し、その中で文化財の積極的な活用を示しています。

## 【事業実績・成果・今後の展開】

＜平成24、25年度＞

旧若宮寮跡地活用検討委員会を開催し、活用方針に関する提言を受けました。

※旧若宮寮…飛行学校建物は戦後、海外からの引揚者や住宅困窮者が暮らす引揚寮「若宮寮」となり、平成19年まで使用されていた。

＜平成26年度＞

「旧若宮寮（旧熊谷陸軍飛行学校桶川分教場）跡地整備基本計画」を策定しました。また、学校法人ものづくり大学と官学連携協定を締結しました。

＜平成27年度＞

建物の学術調査及び基本設計図書を作成しました。また、現存する建築物5棟を市の有形文化財に指定しました。

＜平成28年度＞

木造の建築物4棟（守衛棟、車庫棟、兵舎棟、便所棟）の解体調査研究を実施しました。

<平成29年度>

「市指定文化財 旧熊谷陸軍飛行学校桶川分教場建物 保存活用計画」を策定しました。また、復原整備に向けた実施設計図書を作成しました。

<今後の展開>

復原整備工事を実施し、平和の発信等を目的とする施設として平成32年度中の開館を目指します。

## 【参考資料】

旧熊谷陸軍飛行学校桶川分教場パンフレット

〔 連絡先 〕

道の駅・飛行学校跡地整備課 飛行学校跡地整備係

048(786)3211(内線2231)

# 旧熊谷陸軍飛行学校桶川分教場



兵舎棟外観

## ●●道の駅・飛行学校跡地整備課からのお知らせ●●

### ■市の有形文化財に指定されました

「旧熊谷陸軍飛行学校桶川分教場建物」五棟

所在地：桶川市大字川田谷2335番16

当時の陸軍飛行学校の建物群が残る、全国的にも希少性の高い遺構です。

### ■整備事業実施中のため、公開を中断しています

平成28年度に建物の解体調査を実施いたしました。現在、敷地は更地になっており、部材の保存を行っています。整備事業の進捗や公開再開の時期などにつきましては、市ホームページにてお知らせいたします。



# 文化財指定を受けた建造物



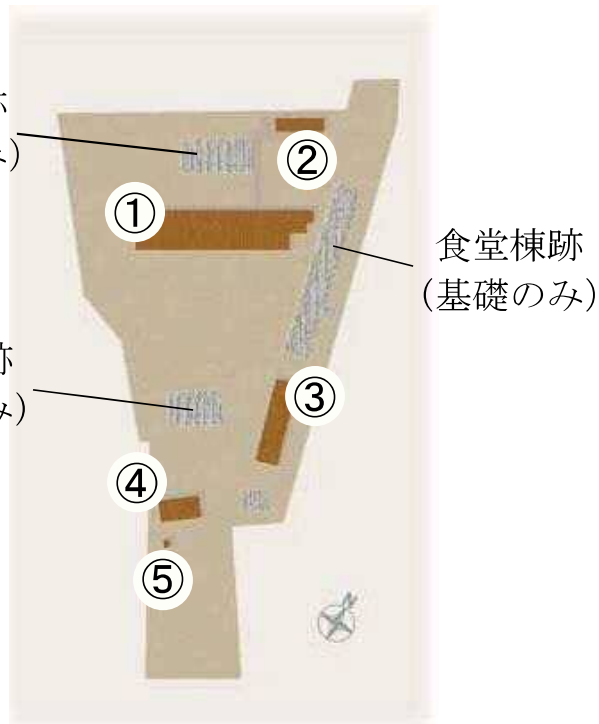
① 兵舎棟

飛行学校時代、学生の寝室となっていた木造平屋建ての建物。平面計画はメートル法、立面計画は尺貫法で作られた稀有な建築物である。



② 便所棟

木製扉などから往時の様子をうかがい知ることができる。



③ 車庫棟

鉄の扉を開けた先には、車を整備するためのピットが見られる。



④ 守衛棟

守衛事務室兼休憩所として使われていたものと想定される。



⑤ 弾薬庫

コンクリート造の建物で、壁や石段などが現存している。



# 熊谷陸軍飛行学校桶川分教場の歴史

熊谷陸軍飛行学校桶川分教場は、熊谷陸軍飛行学校（※）の分教場として、昭和12年(1937)6月、現在の桶川市川田谷に開校しました。荒川に架かる太郎右衛門橋北側の敷地には、現在も守衛棟・車庫棟・兵舎棟・便所棟・弾薬庫などが残っています。荒川対岸には、現在本田航空の滑走路がありますが、当時の飛行学生たちも同じ場所を滑走路として使用し飛行訓練を行っていました。

昭和20年(1945)2月の閉校までに、航空兵を希望した召集下士官や少年飛行兵など、ここで教育を受けた若者は、推定1500～1600名にのぼります。飛行学校が廃止された昭和20年(1945)4月5日には、陸軍初の練習機による特攻、振武第79特別攻撃隊12名を鹿児島県知覧町（現在の南九州市）へ送り出しました。

終戦を迎えると、桶川分教場として使用されていた建物には間仕切りなどの増改築が施され、大陸からの引き揚げ者など約300名の住居（若宮寮）となりました。

（※）熊谷陸軍飛行学校：満州事変勃発後、航空兵力増強の機運が高まり、昭和10年(1935)12月、現在の航空自衛隊熊谷基地の位置に開校。



昭和17年頃の熊谷陸軍飛行学校桶川分教場正門  
/NPO法人旧陸軍桶川飛行学校を語り継ぐ会提供



九五式中間練習機(通称「赤とんぼ」)を使った飛行訓練風景  
/臼田智子氏提供

## 現地へのアクセス

※整備事業実施中のため、現在公開は中断しています。

### ■所在地

桶川市大字川田谷2335番16

### ■バスでお越しの場合

JR高崎線桶川駅西口から  
川越駅行き東武バスで10分、  
柏原バス停下車

### ■車でお越しの場合

桶川市内から川越方面へ向かい、  
荒川を渡る太郎右衛門橋の上り口  
手前を右側側道へ

